【総括表】

用途	スポーツ施設

1　対象施設

本個別施設計画での対象施設は、次に示す施設とする。

	施設名	所在地	基本的な方針	摘要
1	猿投公園	高町	大規模修繕	
2	毘森公園	小坂町	現状維持	
3	柳川瀬公園	畝部東町	大規模修繕	
4	豊田市勘八漕艇庫	勘八町	現状維持	
5	豊田市高岡公園体育館	中田町	大規模修繕	
6	豊田市東山体育センター	宝来町	現状維持	
7	豊田市五ケ丘運動広場	五ケ丘	現状維持	
8	豊田市西部体育館	西新町	大規模修繕	
9	井上公園水泳場	井上町	現状維持	
10	旭総合体育館	下切町	現状維持	
11	旭弓道場	下切町	大規模修繕	
12	旭Ｂ＆Ｇ海洋センター	時瀬町	現状維持	
13	下山トレーニングセンター	大沼町	現状維持	
14	下山西部プール	下山田代町	現状維持	
15	緑の公園	市場町	大規模修繕	
16	小原ふれあい公園	小原町	現状維持	
17	足助トレーニングセンター	足助町	現状維持	
18	ふれあいセンター萩野	桑田和町	現状維持	
19	足助プール	足助町	現状維持	
20	藤岡体育センター	藤岡飯野町	現状維持	

2　計画期間

2021 年度から 2026 年度までの 6 年間とする。

3　目標使用年数

原則、目標使用年数は 57 年以上とする。

4　対策の優先順位の考え方

当該施設は、幅広い年齢層の市民が日常的にスポーツを楽しむ施設であり、ふれあいの場としても幅広く活用される機能を有している。今後も、この機能を引き続き維持することを基本とする。

そのためには劣化状況や点検・診断結果等を踏まえ、財政負担の平準化等も考慮しながら計画的な施設の維持保全を進めていくことが重要である。

【個別表】

1	施設名	猿投公園体育館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高町	延床面積	3,489.92 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育館	RC 造	2002	3,489.92	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投公園体育館は建築後２０年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられる。外壁には一部エフロレッセンスがみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては床面の劣化、通気口の凹み、スピーカーガード・扉廻り縁の損傷が目立つ。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

1	施設名	猿投公園球技場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高町	延床面積	490.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育館	S 造	1993	490.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投公園球技場は建築後２５年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においてはグラウンドの日常管理は充分に実施されていると見受けられるが、全体に芝の密度が低く、長軸方向の規制ライン外側に裸地が発生している。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

1	施設名	猿投公園陸上競技場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高町	延床面積	4,461.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
陸上競技場	RC 造	1987	4,461.00	3 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投公園陸上競技場は建築後３０年程度経過しており、ひび割れ汚れ等やの経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては公認継続整備として５年ごとに改修が実施されているが、３０年が経過し全天候舗装の基層面の劣化度合いの確認が必要な時期である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

1	施設名	猿投公園ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高町	延床面積	517.64 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ場	RC 造	2005	517.64	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投公園ソフトボール場は建築後１５年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である 運動施設においてはグラウンドの管理は実施されているが、外野芝が生え上がるとグラウンド排水機能を阻害してしまうこともある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

（（現在の導入状況）
指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

（今後の考え）
引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

1	施設名	猿投公園野球場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高町	延床面積	6,655.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
野球場	RC 造	1989	6,655.00	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投公園野球場は建築後３０年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においてはグラウンドの日常管理は充分実施されているが、外野芝が生え上るとグラウンド排水機能を阻害してしまうこともある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

1	施設名	猿投公園ｱｰﾁｪﾘｰ場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高町	延床面積	60.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
ｱｰﾁｪﾘｰ場	S 造	2005	60.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投公園アーチェリー場は建築後１５年程度経過しており、汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては射場及び矢取り道の人工芝が劣化し、基層アスファルトが見える部分も発生している。また、矢道天然芝の密度低下と雑草の繁殖が見られる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

1	施設名	猿投公園弓道場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	高町	延床面積	1,252.89 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
弓道場	S 造	2005	1,252.89	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
猿投公園弓道場は建築後１５年程度経過しており、汚れや剥離等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては、垛の崩れ、エプロン部分の痩せが見られる。また矢道の芝生育状態が悪く、雑草の繁殖が目立つ。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	毘森公園野球場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小坂町	延床面積	2,065.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
野球場	RC 造	1949	462.50	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
毘森公園野球場は建築後７０年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においてはグラウンド舗装が単層構造であり、天候不順等に対応したものではない。また、附帯施設においても老朽化が進んだ状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	毘森公園弓道場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小坂町	延床面積	349.67 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
弓道場	S 造	1986	349.67 ㎡	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
毘森公園弓道場は建築後３０年程度経過しており、汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては垛の崩れ、エプロン部分の痩せが見られる。また矢道の芝生育状態が悪く、雑草の繁殖が目立つ。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

2	施設名	毘森公園管理棟

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小坂町	延床面積	318.50 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
管理棟	RC 造	1973	318.50	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
毘森公園管理棟は建築後５０年程度経過しており、ひび割れや剥離等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

3	施設名	柳川瀬公園体育館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	畝部東町	延床面積	1,733.56 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育館	RC 造	1986	1,733.56	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
柳川瀬公園体育館は建築後３０年以上経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては床組の旧態化・フロアーの劣化・附帯施設の老朽が目立つ。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

3	施設名	柳川瀬公園マレットゴルフ場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	畝部東町	延床面積	2,065.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
管理棟	S 造	1986	2,065.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
柳川瀬公園マレットゴルフ場管理棟は建築後３０年程度経過しており、汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては施設の供用率は非常に高く、ティーグラウンドの劣化は全体に進んでいる状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

4	施設名	勘八漕艇庫

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	勘八町	延床面積	550.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
漕艇庫	S 造	1986	550.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
勘八漕艇庫は建築後３０年程度経過しており、汚れや錆等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

5	施設名	豊田市高岡公園体育館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	中田町	延床面積	2,065.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育館	S 造	1991	2,065.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
高岡公園体育館は建築後３０年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては、補修跡・傷・ラインの摩耗箇所が多く、供用率の高い施設であるといえる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

6	施設名	豊田市東山体育センター

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	宝来町	延床面積	1,437.96 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育館	RC 造	1978	1,437.96	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
東山体育センターは建築後４０年以上経過しており、ひび割れや錆、剥離等の経年による劣化現象が全体的にみられる。屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては床組の旧態化・フロアーの劣化・附帯施設の老朽が目立つ。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

7	施設名	豊田市五ケ丘運動広場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	五ケ丘	延床面積	210.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
管理棟	RC 造	2001	210.00	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
五ヶ丘運動広場管理棟は建築後２０年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

8	施設名	豊田市西部体育館

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	西新町	延床面積	3,651.09 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育館	RC 造	2006	3,651.09	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
西部体育館は築年数が浅く建築後１０年程度の施設であり、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられる。外壁には一部エフロレッセンスがみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。 運動施設においては補修跡・傷・ラインの磨耗箇所が多く、供用率の高い施設であるといえる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

9	施設名	井上公園水泳場

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	井上町	延床面積	2,828.03 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
屋内プール	RC 造	2007	2,828.03	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
井上公園水泳場屋内プールは建築後１５年程度経過しており、ひび割れや汚れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方（予防保全、事後保全）、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。
☑：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合（機能の集約化・複合化）や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。 （今後の考え） 引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用（イニシャルコスト）だけでなく維持管理等費用（ランニングコスト）を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

10	施設名	旭総合体育館

1　施設の概要

所在地	下切町	延床面積	3,626.41 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育館	SRC 造	1983	3,626.41	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後３８年が経過しているが、２０１０年度に屋根外壁延命化修繕工事が行われており、健全な状態を保っている。各部位の劣化状況も軽度であり、引き続き経過観察しながらの使用で問題ないと思われる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な方針
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
□：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
特になし。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

11	施設名	旭弓道場

1　施設の概要

所在地	下切町	延床面積	278.07 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
旭弓道場	S 造	2001	278.07	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後２０年が経過している。屋根外壁延命化修繕工事が行われた履歴はないが、健全な状態を保っている。各部位の劣化状況も軽度であり、引き続き経過観察しながらの使用で問題ないと思われる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な方針
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。２０２５年に大規模改修を行う予定
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
□：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
特になし。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

12	施設名	旭Ｂ＆Ｇ海洋センター

1　施設の概要

所在地	時瀬町	延床面積	172.93 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
カヌー艇庫	Ｓ造	1998	172.93	１階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後２３年が経過している。屋根外壁延命化修繕工事が行われた履歴はないが、健全な状態を保っている。各部位の劣化状況も軽度であり、引き続き経過観察しながらの使用で問題ないと思われる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な方針
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
□：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
特になし。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

13	施設名	下山トレーニングセンター

1　施設の概要

所在地	大沼町	延床面積	1,847.74 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
トレーニングセンター	S造	1982	1,847.74	1階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
２０１２年に屋根外壁延命化修繕工事が行われ、概ね健全な状態を保っている。部分的に吹付タイルの剥離があるため、経過観察をしながら補修の時期についても検討していく必要がある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
誘導灯・照明器具に点灯不良が確認されているため、ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

14	施設名	下山西部プール

1　施設の概要

所在地	下山田代町	延床面積	80.96 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
更衣室	Ｓ造	1986	68.00	1 階	
管理人室	Ｓ造	1986	12.96	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後３５年が経過しているが、２０１８年度に屋根延命化修繕工事が行われており、概ね健全な状態を保っている。部分的に外壁にひび割れがあるため、経過観察をしながら補修の時期についても検討していく必要がある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

15	施設名	緑の公園

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	市場町	延床面積	2,273.84 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
トレーニングセンター	S 造	1994	1,744.67	2 階	
屋外便所	RC 造	1981	18.00	1 階	
管理棟	RC 造	1981	329.30	1 階	
弓道場	W 造	1988	175.27	1 階	
弓道場便所	W 造	1995	6.60	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は一部の棟では築後４０年が経過しているが、２０１４～２０１６年度に屋根外壁延命化修繕工事が行われており、健全な状態を保っている。各部位の劣化状況も軽度であり、引き続き経過観察しながらの使用で問題ないと思われる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な方針
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。

	☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
	指定管理者制度による運営を実施し、引き続き効率的な運営を図る。
	☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減
	・ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。 ・現在照明設備更新時に、順次 LED 化を行っている。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	
緑の公園、管理棟から先の延長線上（トレーニングセンター側）で、水道の漏水があり改修したが、確認できない軽微な漏水（場所の特定不能）が認められるため、経過観察が必要。	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

16	施設名	小原ふれあい公園

1　施設の概要　（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	小原町	延床面積	202.82 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
広場用 便所	RC 造	1991	31.96	1 階	
広場用 倉庫	S 造	1984	24.30	1 階	
倉庫	S 造	1991	146.56	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
施設は、約３６年経過しており、広場用便所は、小原盆踊り大会、四季桜まつりと集中的な利用があり、更新時には浄化槽の設置規模を検討する必要がある。 その他倉庫施設は構造が比較的単純で、屋根外壁も平成２８年度に更新も行われている。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
各種点検（日常点検、保守点検、法定点検等）の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。 耐用年数を踏まえた適正な修繕により安全性を確保する。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
☑：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善

	（現在の導入状況） 　直営で運営している。 （今後の考え） 　今後も効率的かつ効果的な施設運営に努めるとともにコスト縮減を図る。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減	
	ユニバーサルデザイン・バリアフリー化は、地形の性質上困難であるが、四季桜まつり時には多くの観光客が利用者ニーズに応じた機能への改修など費用対効果を踏まえて施設の利便性の向上に努める。 　照明施設の更新にあっては、既設の水銀灯もあるため省エネ効果の高いＬＥＤ化など計画的に設備更新を進め、維持管理を含めた費用（ランニングコスト）の縮減に努める。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項	

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

17	施設名	足助トレーニングセンター

1　施設の概要

所在地	足助町	延床面積	1,069.75 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
産業センター	RC 造	1984	1,069.75	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後３７年が経過しているが、２０１１年に外壁タイル改修工事のみ行われており、概ね健全な状態を保っている。部分的に屋根の破風板に錆が生じていることや、南側(市道側)の雨樋劣化により、雨水処理不良となっているため、経過観察をしながら改修の時期についても検討していく必要がある。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
・ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。 ・現在アリーナの照明 LED 化について、維持管理も含めて方法を検討中。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

18	施設名	ふれあいセンター萩野

1　施設の概要

所在地	桑田和町	延床面積	1,189.00 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
農林家婦人活動促進センター	RC 造	1996	1,189.00	2 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後２５年が経過しているが、２０１７年に屋根外壁延命化修繕工事が行われており、健全な状態を保っている。各部位の劣化状況も軽度であり、引き続き経過観察しながらの使用で問題ないと思われる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
特になし。
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
特になし。
☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
・照明器具に点灯不良が確認されているため、ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。 ・現在アリーナの照明 LED 化について、維持管理も含めて方法を検討中。

（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

４　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。

【個別表】

20	施設名	藤岡体育センター

1　施設の概要（2019 年 3 月 31 日時点）

所在地	藤岡飯野町	延床面積	1,109.34 ㎡

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積（㎡）	階数	備考
体育センター	RC 造	1981	1,109.34	1 階	

2　個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等
本施設は築後３８年が経過しているが、２００４,２００７,２０１０年度に屋根外壁延命化修繕工事が行われており、健全な状態を保っている。各部位の劣化状況も軽度であり、引き続き経過観察しながらの使用で問題ないと思われる。

3　対策内容と実施時期

（１）基本的な考え方
①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の３つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。
（２）取組方針
以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。
☑：１）点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保
予防保全型の設備機器の更新が重なる時期であり、関連する工事を同時期にまとめて実施することでコストの縮減を図る。また、配管類も同時期に更新することで施設の安全性向上を図る。
□：２）施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進
□：３）民間活力の導入による事業推進や運営改善
☑：４）施設の機能向上による利便性向上やランニングコストの縮減
ＬＥＤ化更新を実施することでランニングコストの縮減を図る。
（３）その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4　対策内容（計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築 等）

※「年次計画表一覧」を参照。